

(実践報告)

## 性暴力被害の現状と被害者支援 — 性暴力被害者支援看護師 (SANE) 養成プログラム —

堀部めぐみ

### I. はじめに

性暴力は魂の殺人と言われ、被害者の心身に与える影響は計り知れない。現在、被害者を支援するために多くの医療職者が活動しており、とりわけ性暴力被害者支援看護師 (Sexual Assault Nurse Examiner ; 以下、SANE と略す) の果たす役割は大きいと考える。筆者は、日本福祉大学が主催する「性暴力被害者支援看護職 (SANE) 養成プログラム 2020」を受講し、65 時間の課程を修了した。さらに、一般社団法人日本フォレンジック看護学会 (Japan Association of Forensic Nursing ; JAFN) が実施した 2021 年度の認定試験に合格し、SANE-J (Sexual Assault Nurse Examiner-Japan ; 日本版性暴力被害者支援看護師) に認定されたため、本稿において SANE 養成プログラムにおける学びについて報告する。

### II. 性暴力被害の現状

性犯罪・性暴力の実態に即した処罰を行うため、明治 40 年の制定以来 110 年ぶりの 2017 年に刑法が大幅に改正された。これにより、強姦罪から強制性交等罪への変更、法定刑の厳罰化、非親告罪化、監護者による性犯罪に関する規定が新設された。刑法の改正により、性犯罪・性暴力を看過しない社会的気運は高まりつつある。しかし、2019 年に性犯罪に対する無罪判決が続き、女性らによる性暴力根絶を目指すフラワーデモが行われるなど、改正された刑法が被害者の救済策として十分であるとは言い難い状況にある。

2020 年の強制性交等の認知件数は、1,332 件 (検挙率 97.4%)、強制わいせつは 4,154 件 (同 90.7%) である。被害女性の年齢層別認知件数は、強制性交等では 19 歳以下が 528 件 (全年齢層の 42.0%)、20-29 歳が 477 件 (同 37.9%) である。同様に、強制わいせつは、19 歳以下が 1,726 件 (同 43.2%)、20-29 歳が 1,455 件 (同 36.4%) であり (警察庁, 2021)、強制性交、強制わいせつともに 19 歳以下の若年層が被害者全体のおよそ 4 割を占めている。2015 年のわが国の人口 10 万人あたりの強制性交等の発生率は 0.9 であり、フランスの 20.1、米国の 38.7 (法務省, 2021) に比してかなり低い数値である。性犯罪には暗数が多いと言われており、実際には警察が認知できていないさらに多くの被害者が存在するとみられている。

各都道府県に性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターが整備され、被害後、早期に相談できる体制が整った。しかし、内閣府の調査では、無理やりに性交等をされた被害者について、「どこ (だれ) にも相談しなかった」と回答した人が最も多かった (女性 58.4%、男性 70.6%)。相談した場合の相談先としては、「友人・知人」が最も多く (女性 23.2%、男性 23.5%)、「医療関係者」に相談した人 (女性 0.8%、男性は記載なし) は、「警察」に相談した人 (女性 6.4%、男性は記載なし) より低い結果であった。また、無理やりに性交等された被害者についてどこにも相談しなかった理由として、女性の 49.3% が「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と回答している (内閣府男女共同参画局, 2021)。これらの結果から、被害者が医療機関に相談する割合はきわめて低く、病院を受診することは心理的ハードルが高いと推察される。しかし、SANE は、性暴力被害者の支援に関する専門的な知識を有し、被害者の早期回復に寄与することができる。そのため、多くの人に SANE に関する情報を提供し、被害者が被害直後から支援を受けられる環境を整えることが喫緊の課題である。

### Ⅲ. SANE の定義と役割

1970 年代以降、米国において暴力被害の問題が深刻化したことから、これらの問題に対応するため、1992 年に国際フォレンジック看護学会が設立され、暴力の根絶、実態の把握と予防、多様な被害者支援、専門職者の教育等および実践活動支援が行われている（加納ら、2016）。

フォレンジック (forensic) は日本語で、「法廷の、法的に関する」と翻訳されている。わが国では、2014 年に日本フォレンジック看護学会が設立され、性暴力のみならず、また、被害・加害を問わず、あらゆる暴力に関連する健康問題への看護を提供するため活動している（加納ら、2016）。

フォレンジック看護の実践範囲は広く、なかでもフォレンジック看護において性暴力被害者への支援活動は大きな比重を占める（加納ら、2016）。国際フォレンジック看護学会 (International Association of Forensic Nurses : 以下、IAFN と略す) では、性暴力被害者への支援活動を遂行するために、性的暴力や性的虐待にあった患者への法医学検査とフォレンジック看護について特化した教育を修了し、臨床実践の準備を整えている登録看護師を SANE としている (IAFN, 2014)。

### Ⅳ. SANE 養成プログラムについて

#### 1. 受講までの経緯

筆者が臨床で勤務していた頃、配偶者からの暴力被害に遭っていた女性がいたが、当時は警察等への相談を提案するなど一般的な対応しかできなかった。その後、辛い思いをされている方の力になりたいと思いつけてきたが、支援に関する方策を知らず忸怩たる思いを抱えていた。そして昨年、性暴力被害者支援看護師を養成する講習があることを知った。被害者に対して適切な支援を提供するためには、支援に関する科学的根拠に基づいた知識の修得が必要不可欠である。SANE 養成プログラムでは、被害者に対する心身のケアのみならず法医学の知識や技術を修得することにより、被害者に対する全人的なケアのスキルを修得することができると考え、本プログラムを受講した。

#### 2. SANE 養成プログラムでの学び

SANE として修得すべき内容は多岐にわたり、65 時間の研修プログラムでは、対象者を全人的に理解し支援するために必要となる知識について学修した。今回の研修は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、全 40 回のうち 36 回が Web 会議サービスによる講義だった。

性暴力被害者の被害後の行動として、警察へ通報する、病院あるいはワンストップ支援センターに相談する、何もしないなどが想定されるが、被害者が警察等に来たことを想定して論を進める。警察や病院では、被害者に対して被害状況の聴取および診察を行う。女性が性暴力被害を受けた場合、妊娠と性感染症の予防のために検査および避妊薬の投与を行い、被害者が加害者を告訴する際に必要となる証拠を採取する。裁判では被害者は、弁護士や検察官などから被害状況について証言を求められる。これらの期間において、被害者が身の危険を感じる場合はシェルター等により保護する。このように、被害者に切れ目なく支援を提供するために多職種による連携が図られる。そして SANE は、被害からの回復への道のりを共に歩む伴走者として、被害直後から被害者に寄り添い支援する。

SANE の支援を必要とする被害者は女性に限らず、被害の内容も恋人など親密な関係にある、又はあった者から振られる暴力 (domestic violence : DV)、児童虐待等さまざまである。SANE 研修では、多様な被害者の支援に必要な専門的な知識を修得するため、SANE、産婦人科医師、泌尿器科医師、児童精神科医師、監察医、弁護士、検察官、医療ソーシャルワーカー、シェルタースタッフ、被害者支援団体、LGBT 当事者等の方々から講義を受けた。性暴力被害についてある程度の情報を得て研修に臨んだはずであったが、現実にはさらに過酷だった。受講中に被害者の苦しみが胸に迫り、1 日の研修を終えるとかなり精神力を消耗した。対面で行われた 4 回の研修では、被害者支援という志を同じくする看護師らが集まり情報交換することにより、

気持ちを立て直すことができた。そして、これらの講義を受講することで、性暴力被害者を全人的に支援するスキルを学修することができた。

## V. 今後の課題

暴力は、対等でない関係においてパワーとコントロールにより行われる、被害者の人権を無視する行為である。特に、性暴力は被害者の人格を踏みにじり、被害者の心身に長期にわたり回復困難な影響を及ぼす。そのため、被害者を支援するとともに、誰も犯罪の被害者にも加害者にもさせない、犯罪抑止に向けた予防的支援が必要であると考えます。また、周囲の者は傍観者になることなく、犯罪行為に対して一人ひとりが声を上げることも重要である。今後は、SANEの活動の啓発とともに、性暴力の抑止に向けて様々な人を対象とした包括的性教育を行い、自他の人権やジェンダーを尊重することの重要性について情報を発信していきたい。

## 謝 辞

本稿を執筆するにあたりご指導いただきました、日本福祉大学看護学研究科 長江美代子教授、一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター 片岡笑美子様に深く感謝申し上げます。

## 参考文献

法務省 (2019). 令和元年版 犯罪白書 各国における強制性交等の発生件数・発生率の推移.

[https://hakusyo1.moj.go.jp/jp/66/nfm/n66\\_2\\_2\\_3\\_1\\_4.html](https://hakusyo1.moj.go.jp/jp/66/nfm/n66_2_2_3_1_4.html) (2021-11-24)

IAFN. Sexual Nurse Examiners. <https://www.forensicnurses.org/page/about> SANE. (2021-11-22)

加納尚美, 李 節子, 家吉望み (2016). フォレンジック看護 性暴力被害者支援の基本から実践まで. 2-16, 医歯薬出版株式会社, 東京.

警察庁 (2021). 令和2年の刑法犯に関する統計資料.

<https://www.npa.go.jp/toukei/seianki/R02/r02keihouhantoukeisiryou.pdf>

内閣府男女共同参画局 (2021). 男女間における暴力に関する調査.

<https://www.moj.go.jp/content/001347785.pdf> (2021-11-22)